

## 平成30年度いわき市総合防災訓練（勿来地区自動車避難訓練） アンケート結果について

調査目的：平成28年11月22日の津波警報発表時、沿岸部において交通渋滞が発生した。このことを踏まえ、原則徒歩避難の周知徹底を踏まえた「要配慮者（徒歩避難困難者）」及び「支援者」による自動車避難訓練を新たに実施し、課題の抽出を行うもの

調査日時：平成30年9月1日（土）午前8時30分（津波警報発表）

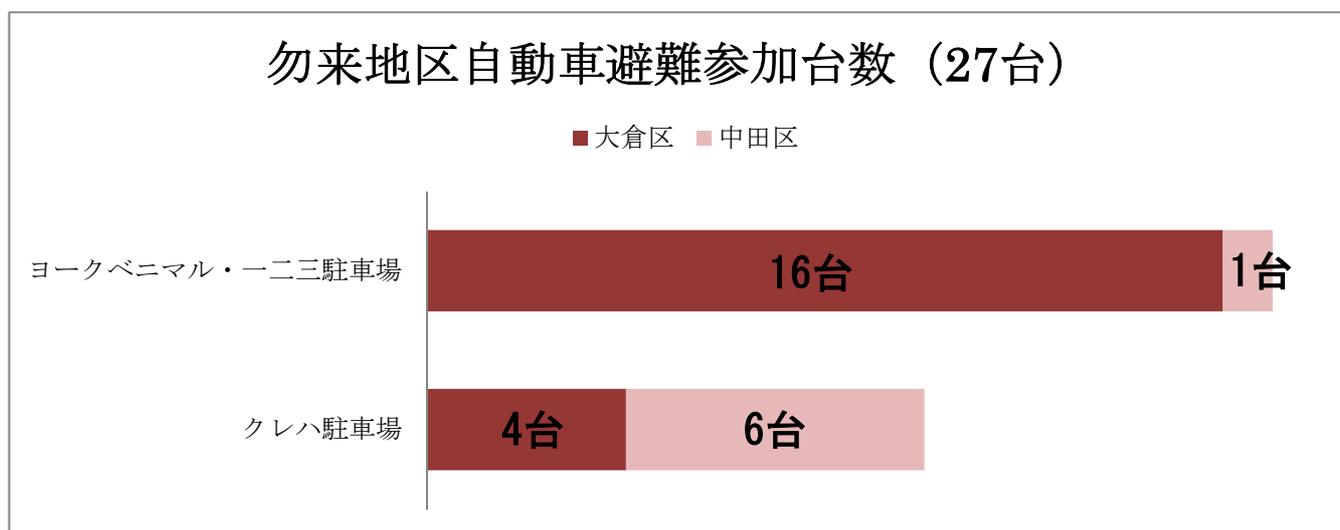
調査場所：クレハ駐車場及びヨークベニマル・一二三屋駐車場

調査対象：勿来地区訓練実施地区（大倉区、中田区）の要配慮者（徒歩避難困難者）及び支援者等のうち、自動車運転者が代表して回答

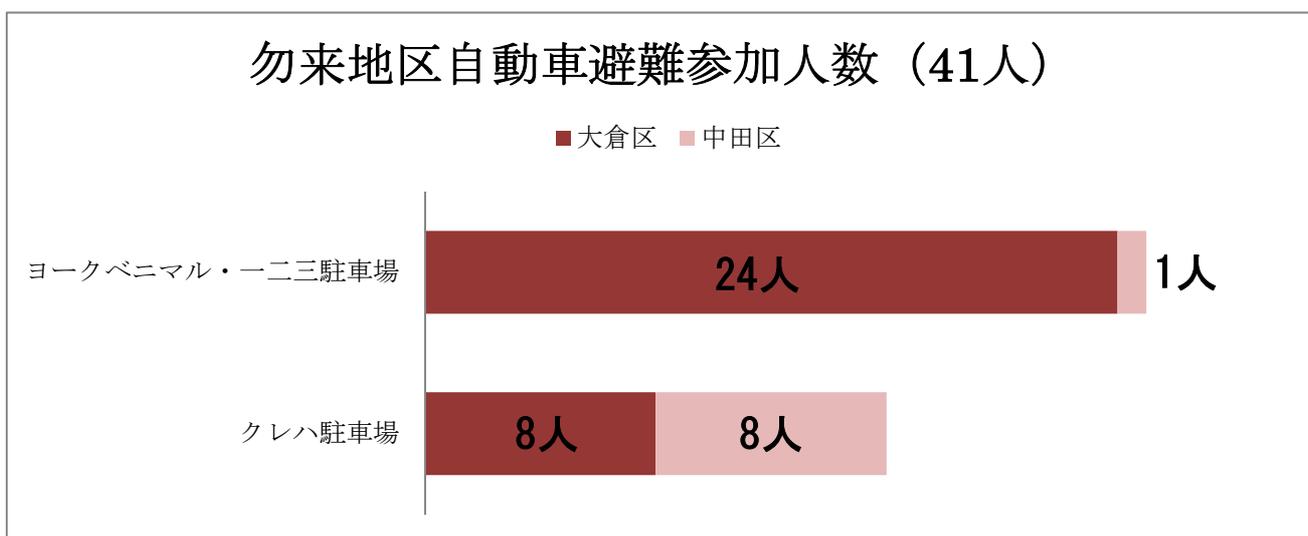
市地域防災計画では、要配慮者等の円滑な避難が困難な場合、必要最小限の範囲内で自動車等による避難を行うこととしており、また、平成 29 年 8 月には津波災害時における自動車による避難ガイドラインを作成し、津波災害時の避難方法について原則徒歩とした上で、最寄りの津波避難場所や高台まで相当な距離がある場合や、避難行動要支援者等徒歩での避難が困難な場合など、やむを得ず自動車により避難する場合は、津波浸水想定区域より内陸部へ移動するよう促すこととしている。

大倉区においては、訓練前に住民説明会を実施し、自動車避難訓練の主旨を説明した上で参加者を促した。また、中田区においては、毎年地区独自に津波避難ビルに指定している錦東小学校への津波避難訓練を実施しており、今年度においては、市総合防災訓練に合わせて実施したいという要望があったことから錦東小学校への徒歩避難訓練のほか、ガイドラインに基づく対象者による自動車避難訓練にも参加していただいた。

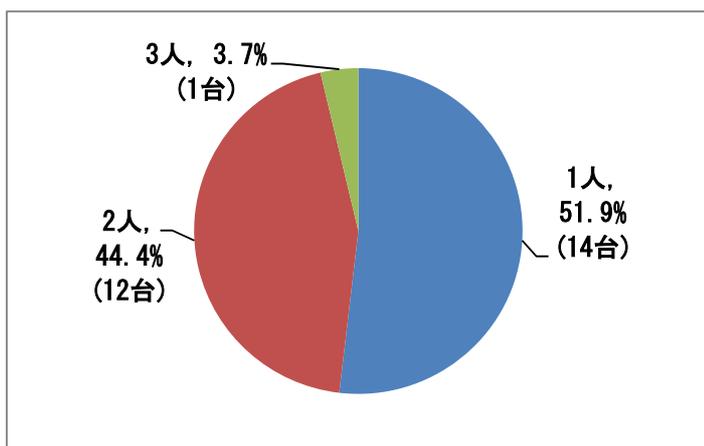
**【自動車避難参加台数の内訳】**



**【自動車避難参加人数の内訳】**

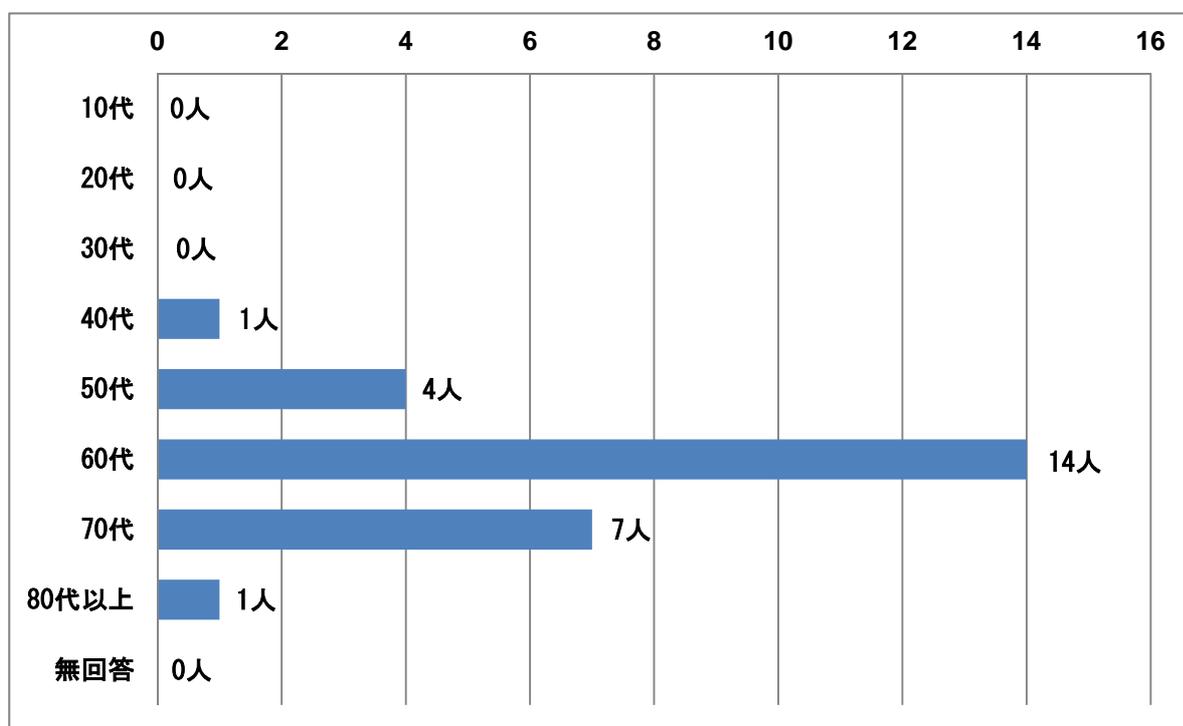


【自動車 1 台あたりの乗合い人数】



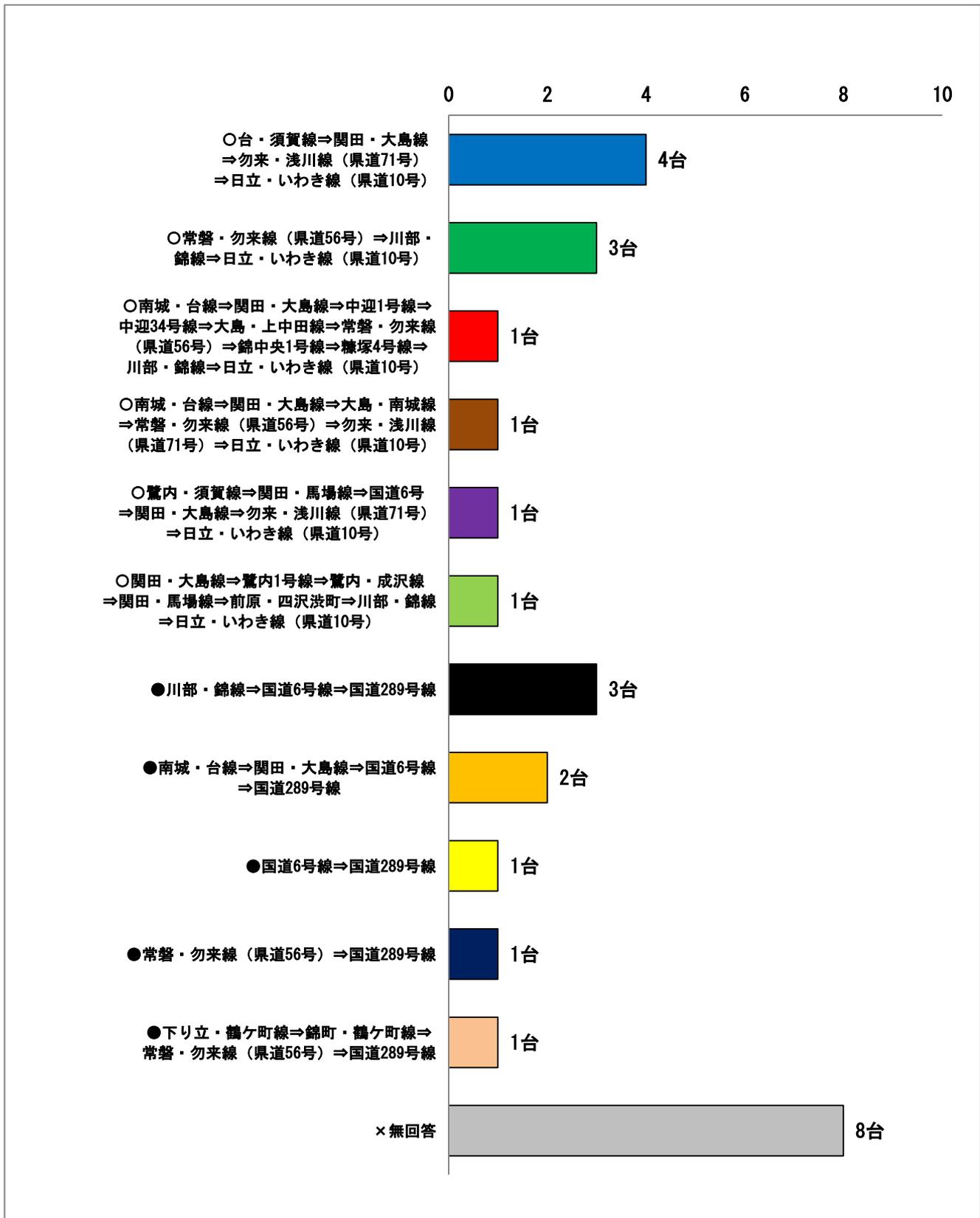
自動車避難参加対象者については、市地域防災計画に基づき徒歩避難困難者（要配慮者及び支援者）としているが、今回の訓練時において、要配慮者自身が当日外出困難な場合については、支援者のみの参加を可とした。なお、勿来地区の訓練参加者（338名）に占める自動車避難訓練参加者（41名）の割合は約 12.1%であった。

【自動車避難参加者（自動車運転者）の年代別比較(27人)】



訓練実施日が土曜日となり、60代の参加者が全体の半数以上となった。午前中は小雨が降っていたということもあったためか、30代以下の参加者はいなかった。

【自動車避難訓練参加者の避難経路(27台)】

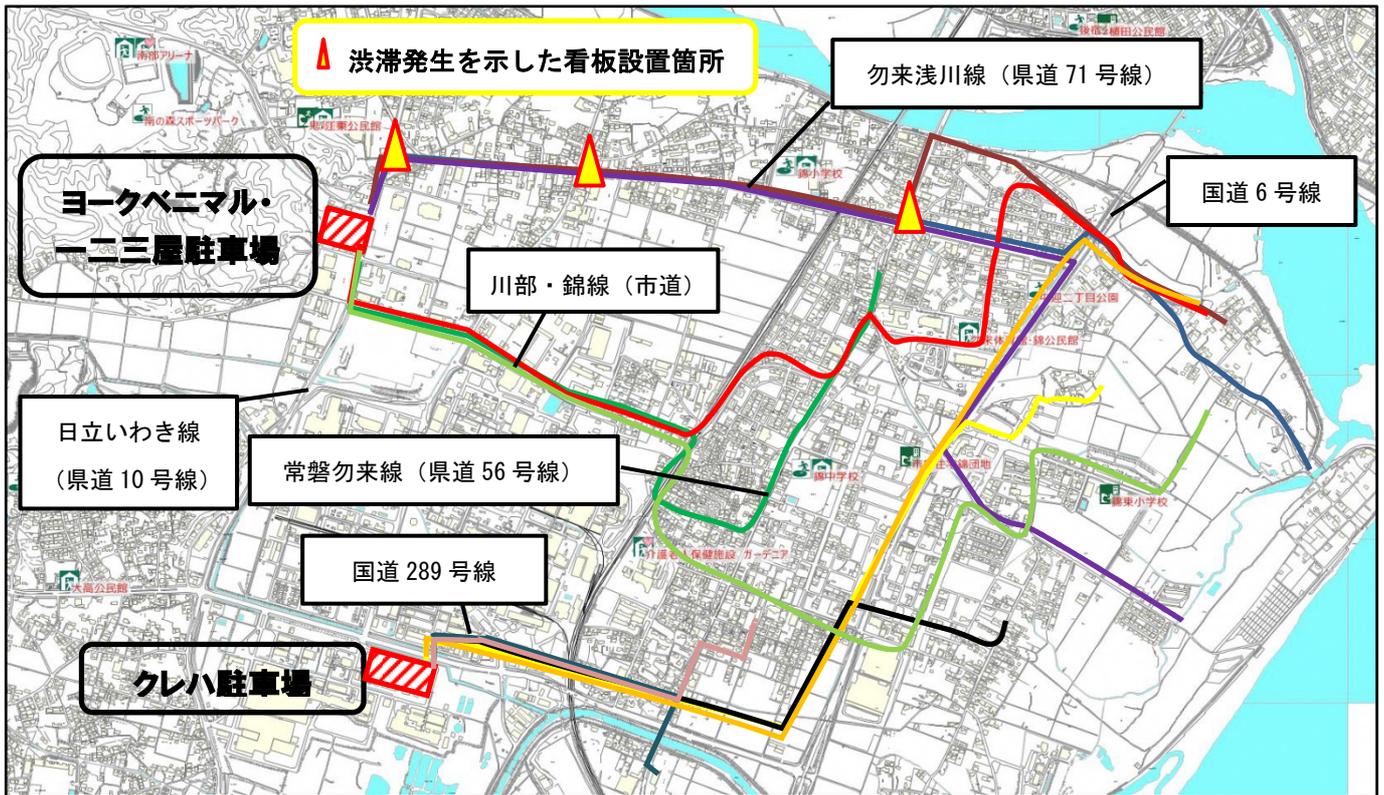


○ . . . 自宅等からヨークベニマル・一二三屋駐車場までの経路

● . . . 自宅からクレハ駐車場までの経路

× . . . 無回答

<避難経路図>

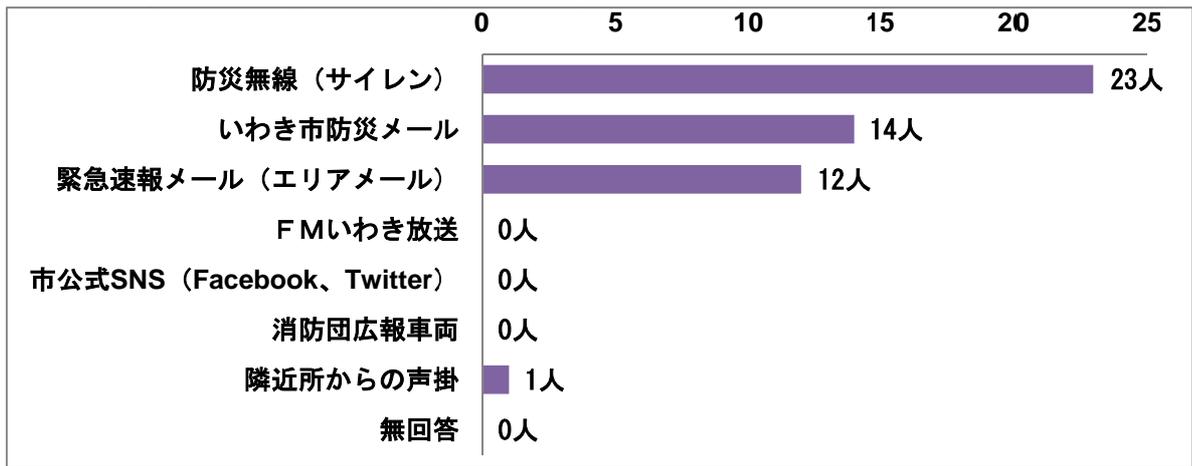


自動車避難参加者の避難経路については、多くの参加者が関田・大島線から勿来・浅川線（県道 71 号）を左折し、日立・いわき線（県道 10 号）を通過してアンケート回収場所であるヨークベニマル・一二三屋駐車場へ移動した。

また、もう一つのアンケート回収場所として設置したクレハ駐車場には、大倉区及び中田区の沿岸部から国道 6 号を左折し、国道 289 号へ右折するか、または、県道 56 号から国道 289 号を通過していた。

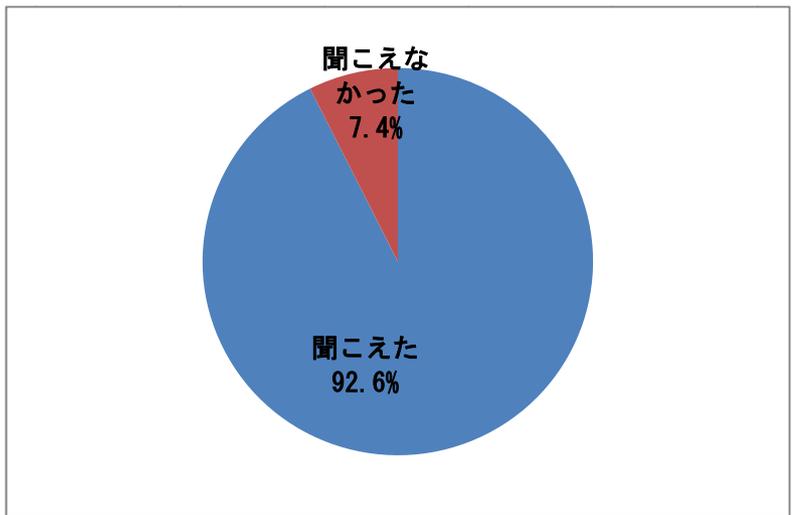
そのほかの参加者の避難経路として、平成 28 年 11 月 22 日の津波警報時における渋滞路線であった県道 71 号を使用せず、信号機の少ない川部・錦線を通過してヨークベニマル・一二三屋駐車場まで移動した参加者も見受けられ、津波浸水想定区域の境界付近である J R の線路までの避難経路についてはおおむね分散化された結果となった。

【津波警報の発表を確認した手段（複数回答可）】

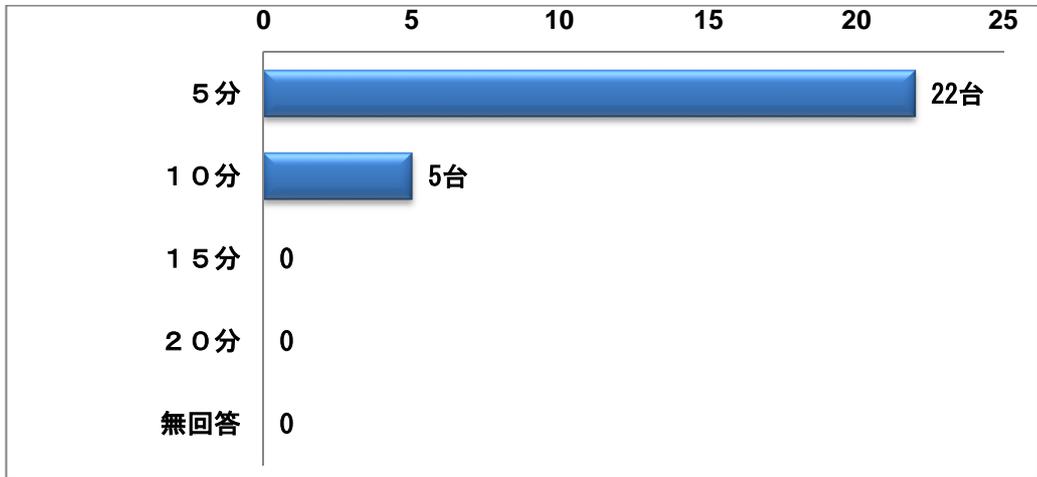


津波警報発表時の確認手段として、大部分の参加者が、沿岸部に設置している屋外拡声子局からの放送及び携帯メールにて情報を受け、避難を開始した。

【防災無線の聞き取り状況】



【自宅を出発するまでに要した時間(27台)】



自動車避難に要した時間については、すべての車が津波警報発表を確認後に 10 分以内で自宅を出発することができ、訓練開始時から 30 分以内で訓練の目的地であるヨークベニマル・一二三屋駐車場及びクレハ駐車場に到着することができたため、津波災害時における自動車による避難ガイドラインに基づく津波浸水想定区域より内陸部への移動については速やかに避難できた。

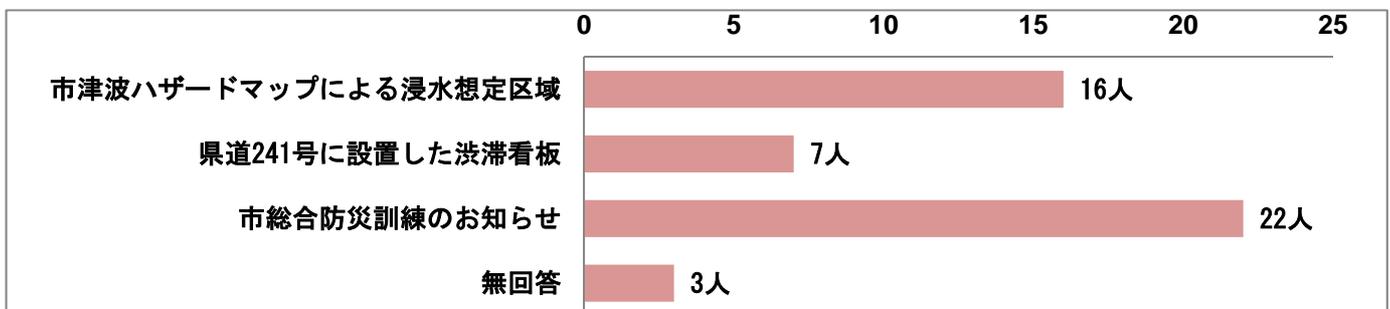
【ヨークベニマル・一二三屋駐車場到着時間（17 台）】

訓練開始時（8 時 30 分）から到着までに要した時間	台数	到着時刻
10 分	2 台	8 時 40 分
15 分	10 台	8 時 45 分
20 分	3 台	8 時 50 分
25 分	1 台	8 時 55 分
無回答	1 台	—

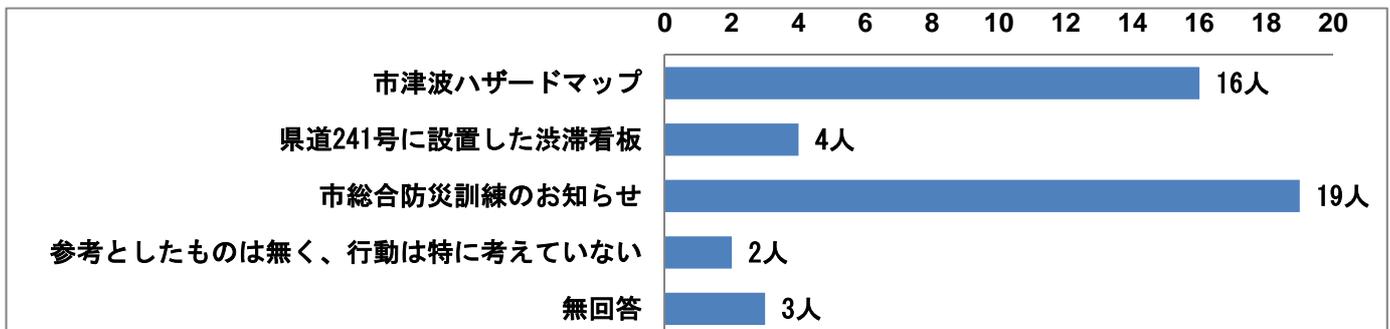
【クレハ駐車場到着時間（10 台）】

訓練開始時（8 時 30 分）から到着までに要した時間	台数	到着時刻
10 分	7 台	8 時 40 分
15 分	2 台	8 時 45 分
20 分	1 台	8 時 50 分

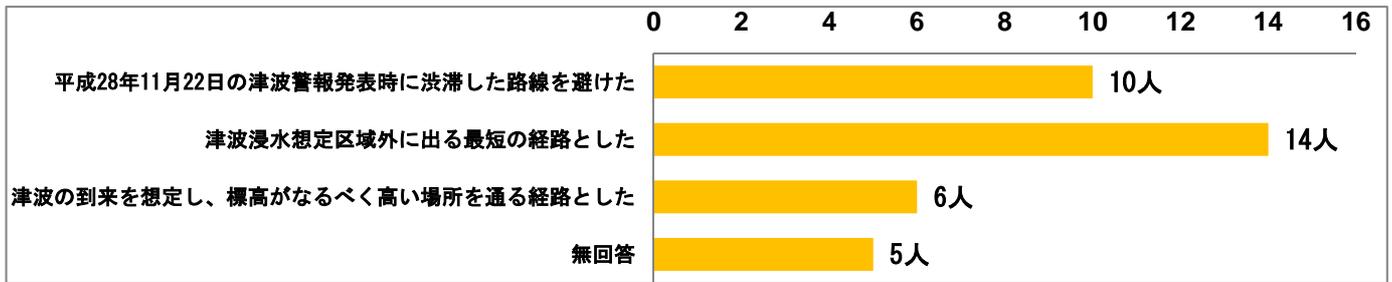
【今回の訓練の取組みについて知っていたこと（複数回答可）】



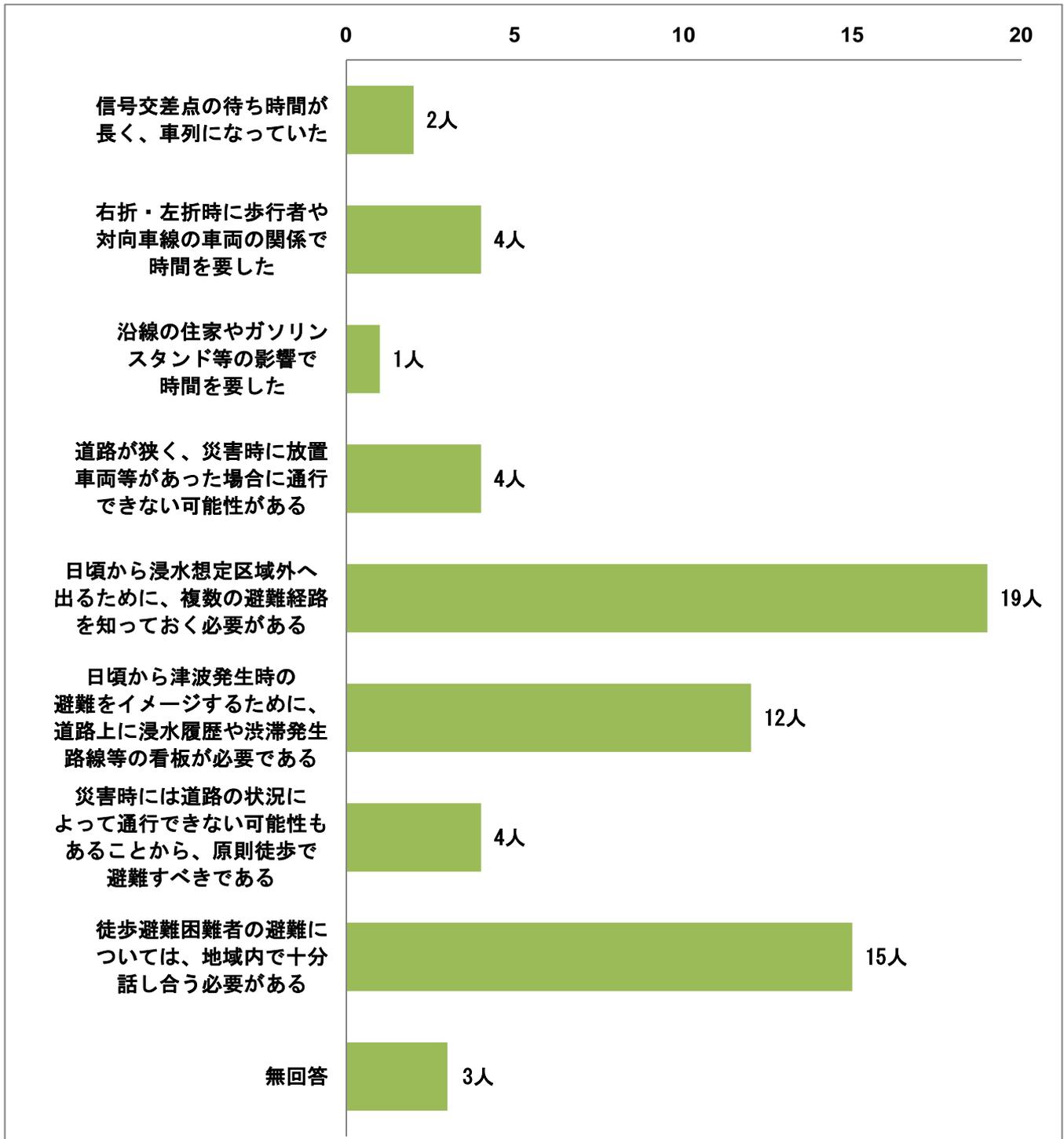
【今回の訓練の避難経路を考えるにあたって参考としたもの（複数回答可）】



【避難経路を考えるにあたり、注意したこと（複数回答可）】

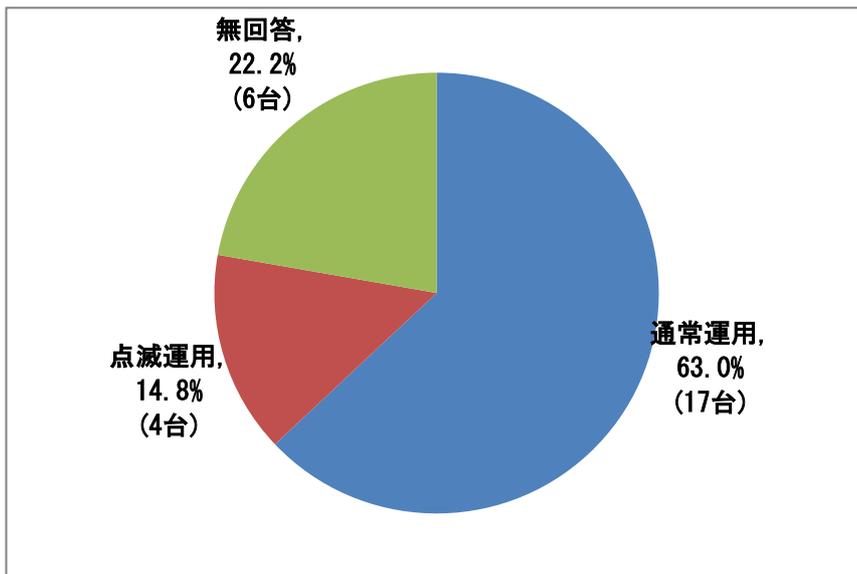


【本日の避難訓練に参加し、感じたこと（複数回答可）】



自動車避難を実施した 27 名中 19 名（約 70.4%）の参加者が津波災害時における複数の避難経路を知っておく必要があると回答しており、また、地域防災計画における津波警報等発生時の避難については、地域内の協議に基づき、最小限の範囲内にて自動車避難を行うことを示しており、半数以上の参加者が認識していることを確認した。

【交差点における信号機の動作について（本日の訓練において、交差点を通過したとき、信号機は通常運用と点滅運用のどちらがスムーズに通過できると感じたか。）（27 台）】



今回の自動車避難訓練においては、交差点における信号機を通常運用とした上で避難訓練を実施したが、アンケート調査では、通常運用の方がスムーズに通過できると感じた方が、主道路（交通量が多い道路）の信号機を黄色点滅とし、従道路（交通量が少ない道路）の信号機を赤点滅とする点滅運用の方がスムーズに通過できると感じた方を上回った結果となった。

通常運用を選択した理由としては、「車両同士の衝突が避けられる」、「通常運用による交通整理の方が、点滅運用に比べて車の流れがスムーズになるため」「イレギュラーだとパニックを引き起こす」「点滅では危険」という回答があった。

一方で、点滅運用を選択した理由としては、「より注意が促される」、「黄色点滅となる交通量が多い側の道路での信号待ちがなくなり、車の流れがスムーズになるため」という回答であった。

その他、信号機の運用についての意見として「交通整理人の役割が必要である」という意見があった。

今後の訓練においても実施地区住民に対して、引き続き訓練説明会の実施及び回覧版等により津波災害時における避難の周知を行っていくとともに、出前講座や自主防災組織研修会等において津波災害時における自動車による避難ガイドラインの周知を図っていくこととする。

また、今回の訓練の結果を踏まえて防災会議及び津波避難検討部会において、ガイドラインで示しているランドマークシグナルの検討や、避難誘導サインの設置等を進めていくことにより、よりよい避難方法等を検討することとしたい。